

「3・11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.10 2011年10月2日

よみがえった皿たち

宮古の旅館で波をかぶった数千枚もの皿を、ボランティアの方々が一枚一枚丁寧に洗って下さいました。早速会食会が開かれ、これらの皿が用いられました。盛り付けられたのは、もちろん三陸産の魚です。地道な作業の積み重ねによって、復興は少しずつなされています。



感謝と報告

9月は、東京や北海道に出て行って被災地の現状について報告する機会が与えられました。今まで支援して下さいました諸団体に対し感謝を表すとともに、被災地における取り組みの課題や展望について語り、ともに祈りの時を過ごすことができました。



琴の音、心の琴線に触れる

9月21～22日に宮古市にて四回のコンサートを開催。会場になったのは、仮設住宅の集会所、旅館などです。台風が悪天候にもかかわらず、人々が駆けつけて下さいました。現在トルコで琴の演奏家として活動しておられる末富敦子さんが、心の琴線に触れる演奏をして下さいました。



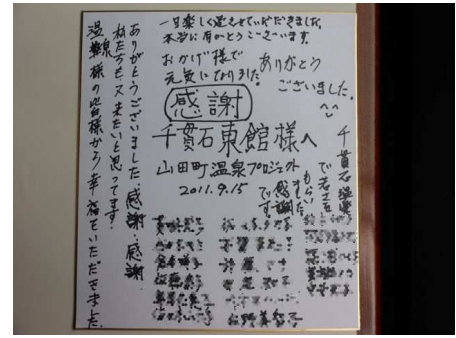
行列のできるクレープ屋？

宮古・田老地区での「子どもと遊び隊」は現在も継続中です。24日(土)は、突然キャンセルになった台湾チームに代わって、関東地区 K GK 卒業生チームが出動。子どもたちのために台湾風(?)クレープを焼いて下さいました。



第四回 温泉プロジェクト報告

佐々木真輝(北上聖書バプテスト教会 牧師)



去る9月14日～15日、第4回目の温泉プロジェクトを実施しました。

今回も山田町の被災地から内陸の金ヶ崎町千貫石温泉にお招きしました。前回と大きく異なるのは、避難所や知人宅等に身を寄せていた方々がすでに仮設住宅へ移った後だったということです。それぞれ身を落ち着ける場所が与えられた事から来る安堵感と共に、それまで仲良くしていた方々とバラバラになったり、仮設住宅団地内のコミュニティがうまく作られていない中での弊害などをひしひしと感じる時となりました。中には仮設に移って以来、日中ほとんど外に出なくなったという方もありました。

また、仮設住宅そのものも仕様に大分差があり、中には玄関や軒先がないとか、内鍵はあるけれど外鍵がないので安心して外出できないといった明らかな不備も聞きました。少なくとも2年程度は暮らすであろう場所でもう少し安心できる環境作りはお手伝いできないかなあと思われました。

温泉プロジェクトは今回で一旦終了ということもあり、参加者の方々にお世話になった温泉旅館に感謝の寄せ書きをしていただきました。

今度は紅葉の季節に自分達で来たいと言っておられました。当たり前にならざる言えませんが、震災から半年経って、そういう希望や願いを言葉に出来るようになったことに、驚きを感じています。

4回を通じて延べ人数で70名以上の方々をお招きし、熱いお風呂（源泉掛け流しのホントに熱いお湯！）と美味しい食事、おしゃべりと心地よい睡眠を楽しんで頂きました。回を重ねるごとに変わって行く状況と心情に耳を傾け、これからの支援のあり方や関わり方を常に考えさせられるプロジェクトでした。

9月に支援活動に従事して下さった諸団体

同盟基督教団、バプテスト教会連合、ホクミン(北海道クリスチャン・ミッション・ネットワーク)、OMF、大胡キリスト教会(群馬)、関東 KGK・OG チーム、秋田カルバリー祈りの家、台湾カベナント教会、IBF、JEA 北海道、八木山聖書バプテスト教会、佐久ホープチャペル、戸倉キリスト教会、盛岡月が丘キリスト教会、宮古コミュニティチャーチ、盛岡聖書バプテスト教会、盛岡みなみ教会、北上聖書バプテスト教会、水沢聖書バプテスト教会（その他、個人としてチームに合流し、支援活動にあたって下さった方々がおられます。）

一つ一つのご奉仕に、心から感謝致します。